

東北中北部向け飼料用稲「べこごのみ」の 無コーティング湛水直播は5月下旬播種

研究のねらい

寒冷地での飼料イネの低コスト・省力生産として無コーティング湛水直播が期待されているが、苗立期の低温や食用品種の移植等との作業競合を避けるため晩播が求められる。しかし、品種や播種期によっては、食用品種との収穫作業競合や収量低下の懸念がある。そこで、東北中北部向け早生飼料イネ専用品種「べこごのみ」を用いて、苗立、収穫期、収量確保からみた播種適期を明らかにする。

成果の内容

- ① 5月下旬以降の播種（播種量 8 kg/10a）で、覆土下でも 100 本/m² 以上の苗立が確保される（図 1）。
- ② 5月下旬播種では出穂の遅延が小さく、食用品種収穫前に黄熟期収穫が可能である（図 2）。
- ③ 5月下旬播種では、6月上旬播種に比べて黄熟期全乾物収量の低下が少ない（図 3）。
- ④ これらの結果から、東北中北部で「べこごのみ」無コーティング湛水土中直播で晩播を行う場合、苗立、収穫期、収量確保からみて 5 月下旬播種が好ましい。

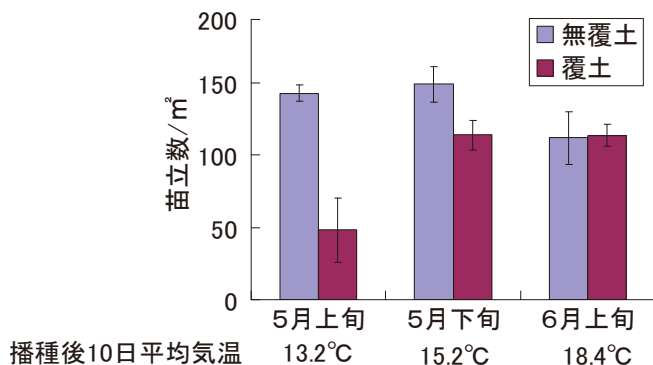


図1 「べこごのみ」無コーティング直播における播種期別苗立数

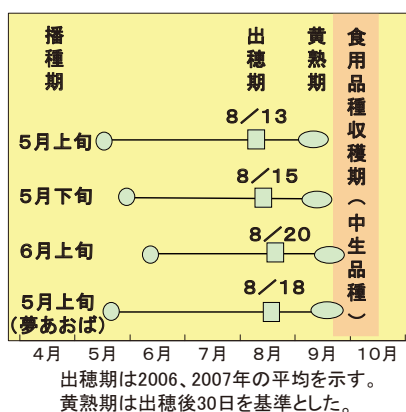


図2 「べこごのみ」無コーティング直播における播種期別出穂期および黄熟期

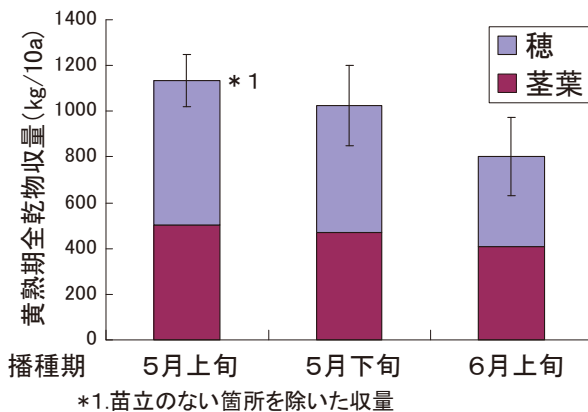


図3 無コーティング直播における播種期別黄熟期全乾物収量 (べこごのみ覆土区)

成果の利活用

- ① 本成果は、東北中北部での「べこごのみ」のホールクロップサイレージとしての利用を対象とする。
なお、食用品種の収穫期は中生品種を基準とする。



独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
東北農業研究センター
<http://tohoku.naro.affrc.go.jp/>

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平 4
電話 019-643-3414 (企画管理部情報広報課)
FAX 019-643-3588